



B-BOY

会員 堀岡 雄一 (66期)

1 始まりはパーティから

HIPHOPとは、MC (ラップ)、DJ、ブレイクダンス及びグラフィティの4要素からなるニューヨーク・ブロンクス発祥のサブカルチャーの総称である。その始まりは、ジャマイカ移民であったKool Hercが、1973年8月11日、一緒に移住した妹のために、ブロンクスでパーティを開催したことがきっかけである。このとき、Kool Hercは、2台のレコードプレイヤーを1台のミキサーで接続し、2枚のレコードを使って楽曲の重低音が強い部分を繰り返しかける演奏方法を発明した。これがDJとブレイクビーツの起源といわれている。その後、Afrika Bambaataaが、1974年11月12日、上記4要素を合わせて「HIPHOP」という言葉を生み出し、HIPHOPが正式に誕生するに至った。本稿では紙幅の関係によりMC及びDJという音楽ジャンルとしてのHIPHOPに焦点を当てて話をしようと思う。

2 曲の聞き方、楽しみ方

HIPHOPの曲の特徴は、歌ではなく韻を踏んでラップをするという点に目が行きがちであるが (LIBRA2017年10月号田我流氏インタビューも興味深い)、何より、サンプリングを基本とした音楽という点にある。

サンプリングとは、他の音源及び楽曲等 (元ネタ) の一部を切り取って引用し、それをループさせる等再構成して、楽曲 (トラックまたはビート) を作ることをいう。元ネタは、ソウルの曲を用いるのが基本だが、クラシック、ジャズ、ロック等ジャンル不問といっている。HIPHOPではこうして作られたトラックにのせてラップをして一つの曲を作るのが一般的である。

サンプリングの名曲としては、KanyeWest「Through TheWire」等が有名で、最近ではDrake「NiceFor What」が2018年ビルボードホット100チャートで1位

を獲得している。

HIPHOPを聴く際には、メッセージ性のあるラップの歌詞に耳を傾けるだけでなく、トラックの重低音に身を委ねてリズム感を味わってみることをお勧めする。そして、お気に入りの曲を見つけたら、その元ネタをたどって聞いてみるというのも、HIPHOPの大きな楽しみといえよう。存知の超有名曲を元ネタにした曲を聞いて、元ネタの新たな魅力に気付かされることもある。

なお、1993年頃を境に、サンプリングを使用せず、PCやドラムマシン等を利用した打ち込みだけで構成された楽曲が多くなった。これには元ネタの著作権が大きく関係している。日本でもヒットした「Happy」で有名なPharrell Williamsも打ち込みを多用している。しかしながら、サンプリングを用いて作られた曲は、不思議と、打ち込みよりも奥行きがあり温かみのある音になる。打ち込みでは表現し難い魅力のあるサンプリングの手法がHIPHOPから消えることはないだろう。

3 身近なところには

HIPHOPは意外なところに潜んでいる。ヒューマンビートボックス (喉と口だけで音を表現する) はDoug E. Freshが名付け親であるし、「ディスる」という言葉もアメリカのラップバトルで用いる「DISS」という言葉に由来する。B-BOYのBはブレイクの頭文字であり、本コーナー名と共通点があるのも気のせいではないだろう。

